



旭光学工業株式会社

〒174 東京都板橋区前野町2丁目36番9号 ☎03(960)5151(代)

旭光学商事株式会社

〒100 東京都千代田区永田町1丁目11番1号 ☎03(580)2051(代)



☆記載内容の仕様などの一部が変更される場合があります。

7612

取り扱い説明書

ASAHI
PENTAX

IME



このたびはアサヒペンタックスMEを
お買い上げ下さいます。誠にありがとうございます。

MEは軽量小型の中に
デジタル表示の自動露出TTL露出計を備え
どなたにでも使いやすい最新型の一眼レフです。

初めてカメラをお使いになる方にも
高級カメラにありがちなむずかしさがないよう
特に考慮しました。ふつうの撮影には、先ず

2・3ページで標準レンズをボディにつけ

3・4ページで電池を入れ 次にフィルムを入れないで

5～7ページのショートコースで充分練習して下さい。

それから

8～11ページでフィルムを入れ

12・13ページは目を通し

14～16ページでソフトケースの準備をし

18・19ページでフィルムの巻戻しまで覚えれば

勇躍して撮影にお出かけになれます。

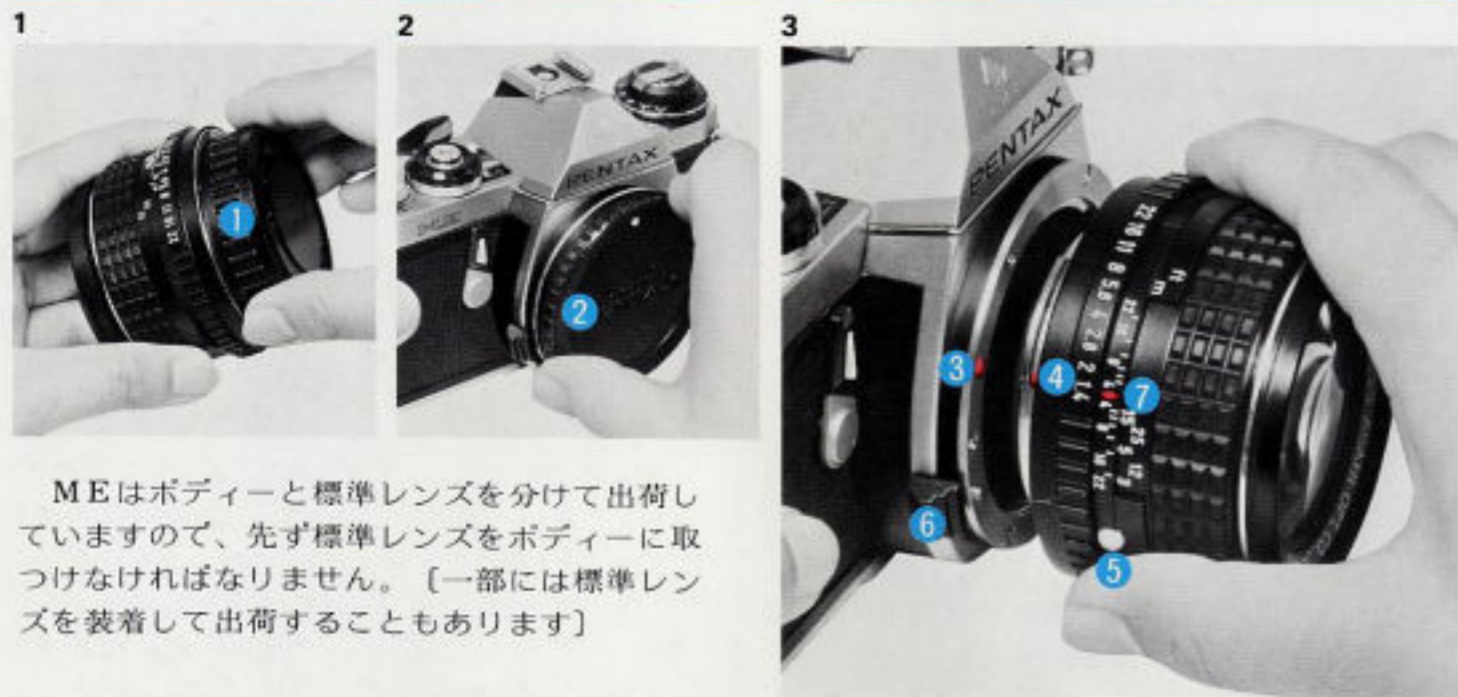
なおMEは全数 ワインダーME〔別売り〕を
お求めになれば自動巻上げができます。

ASAHI
PENTAX ME



・ペンタックス用として作られている他社製品を併用すると、故障の原因や、予期せぬ作品を生む結果になることがありますので、ご購入の際は充分ご注意ください。

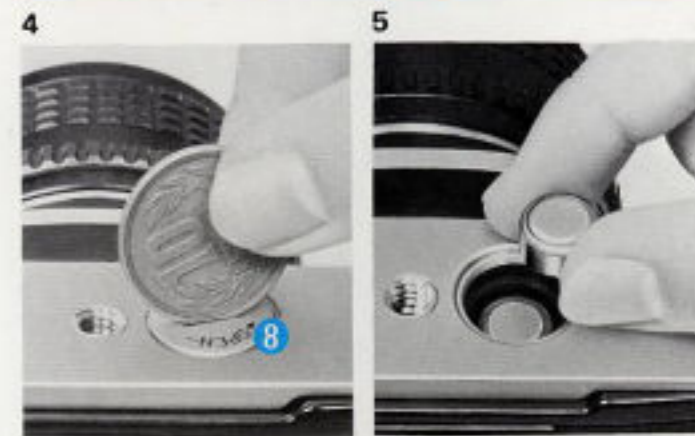
レンズの装着



MEはボディと標準レンズを分けて出荷していますので、先ず標準レンズをボディに取り付けなければなりません。【一部には標準レンズを装着して出荷することもあります】

標準レンズの種別	フィルター	レンズフード
50ミリ・F1.4、F1.7、40ミリ・F2.8	49ミリ	49ミリ、丸型ねじ込み式、及び角型スプリング式
50ミリ・F1.2	52ミリ	52ミリ、丸型、及び角型スプリング式

電池[バッテリー]を入れる



- 1 図、標準レンズを左手に持ち①のレンズマウントキャップ〔レンズのうしろふた〕を反時計方向に回すと簡単にはずせます。〔マウントは座金〕
- 2 図、MEのボディを左手に持ち、②のボディキャップ〔ボディのふた〕を反時計方向に回すとはずせます。
- 3 図、ボディマウントにある③の赤点と、レンズマウントにある④の赤点を一致させてはめ込んでから、時計方向に65度回すと、カチッと音がしてロックされます。

またはレンズ側にある⑤の白プラスチックの半球を⑥のレンズロックレバーに合わせてもはめ込めます。

④のレンズマウントにある赤点は、⑦の◆指標と直線上にありますから、③のボディマウントにある赤点と⑦の指標を合わせてもかまいません。

このように、3通りもある合いマークの内、お好みの方法を選ぶのが、MEの特長です。

暗くて赤点や指標が見えない時は、⑤の白半球を手ざわりで左斜めやや下に持って、ボディ側にはめ込むこともできます。

電池はカメラに入れてありませんから、ご自分で入れて下さい。〔電池の保存状態を最良にするため〕

MEは1.5ボルトの銀電池〔G13型、エバレディーS76E、またはマクセルG13〕を2個使います。

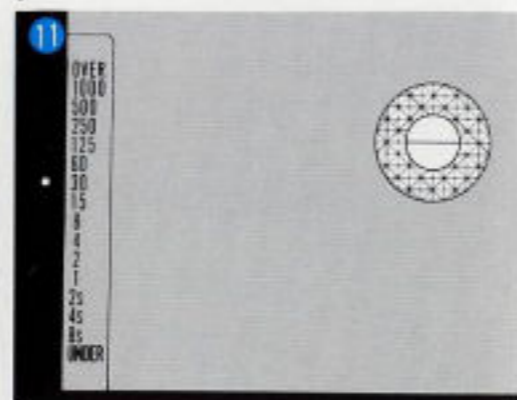
4 図、ボディの底ぶたにある⑧の電池ぶたを硬貨で左回し〔反時計方向〕に回してはずします。

5 図、ボディの凹所に、電池の⊕を下向きにして1個ずつ重ねて入れます。電池ぶたの裏側には⊖が記入してありますから、電池の⊖〔記入してありませんが〕が電池ぶたと接触することになります。電池ぶたは元通りにねじ込みます。

6



7



6図、⑨のファインダー窓をのぞきながら、⑩のシャッターボタンを少し押しと、

7図、ファインダー視野の左側にある⑪のLED〔発光ダイオード〕のどれか1つが必ず点灯します。もし電池の向きを逆に入れた場合は、LEDが点灯しませんし、電池が急激に消耗しますからご注意ください。

●MEのシャッターダイヤルは1ページのように、白いピンがAUTOに合わせてあります。もしAUTOに合っていないかったら、24ページ2図の要領でAUTOに合わせて下さい。

ショートコース

1



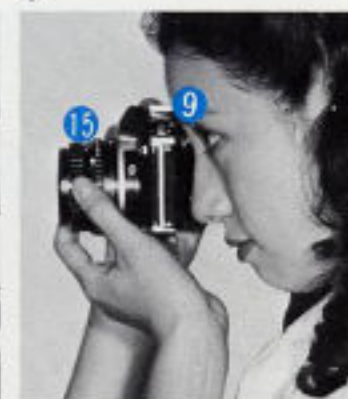
2



3



4



1図、⑫のレンズキャップの両側にあるざざざの部分をはさんで押しとはずせます。

2図、⑬の巻上げレバーを引出し、止まるまで巻きます。一旦巻上げたレバーは、手を放しても2図の位置で止まり、次の巻上げがしやすくなっています。

3図、⑭の絞りをきめます。〔⑦の指標に、昼間の屋外で晴天ならば、5.6か8、曇天ならば4か2.8、室内ならば、1.4、1.7を合わせます〕

4図、⑨のファインダー窓をのぞいて、⑮のピントリングを回して、被写体の中の主な部分がはっきり見えるように調節します。カメラを使う時の状態で正視でない方〔近眼、老眼、遠視、乱視〕は、39ページをごらん下さい。



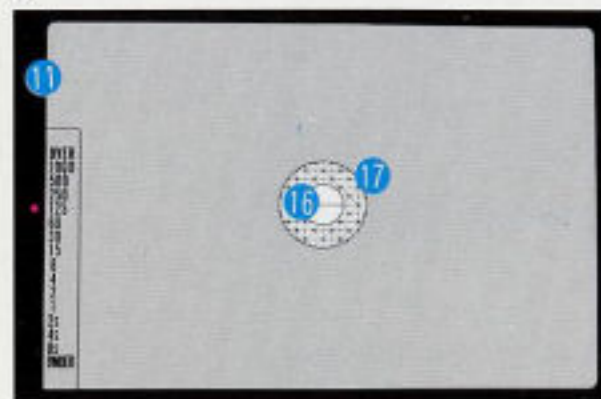
銀電池を誤って火の中に入れるなど急激に熱すると、爆発の危険がありますからご注意ください。

使用済みの銀電池は、カメラ店又はもよりのサービスセンターへお持ちください。

なお、長期間使わないときは電池を必ず抜取ってください。漏液のため接点を痛めることがあります。



5



5 図、ファインダー窓をのぞくと、中央の⑬とその周囲の⑭の部分には特に明るく、ここでピント合わせをするのが最もわかりやすいのです。しかしファインダーのどの部分でもピント合わせができるのが一眼レフの特長です。

⑬の部分ではタテ線が上下に二つに分かれ、これが水平の境目につながった時にピントが合います。ピントが合っていない時は、上下のタテ線がおのおの左右にずれます。

6



⑭の部分ではピントが合っている時は、ただのはっきりした像ですが、ピントが合っていない時はざざざざのある像になります。どちらを使ってもご自由ですが、⑬の方は主として、カメラの横位置で中央にタテ線がある場合とカメラの縦位置で中央にヨコ線がある場合に用います。

7



2 図の⑩のシャッターボタンを少し押し、5 図の左側にある⑪の赤いLED〔発光ダイオード〕のどれかがついてシャッター速度を示します。〔1000は $\frac{1}{1000}$ 秒、30は $\frac{1}{30}$ 秒、8は $\frac{1}{8}$ 秒、1は1秒、8 Sは8秒〕⑪のLEDが1000から30の間で点灯すれば、手持ちで2 図の⑩のシャッターボタンを押してシャッターをきってよいのです。2 枚目からはシャッターボタンを少し押しなくても、常にLEDは点灯しています。

もし、LEDがOVERで点灯した場合〔屋外で3 図の⑭の絞りを2にしたような場合〕は、絞りを数の大きい方向〔時計方向〕に回して、1000より下のLEDが点灯するようにします。

また、もしLEDが30より下で点灯する場合〔室内で3 図の⑭の絞りを5.6にしたような場合〕は、カメラぶれる恐れがあるので、⑭の絞りを数の小さい方向〔反時計方向〕に回して、30より上側のLEDが点灯するようにします。

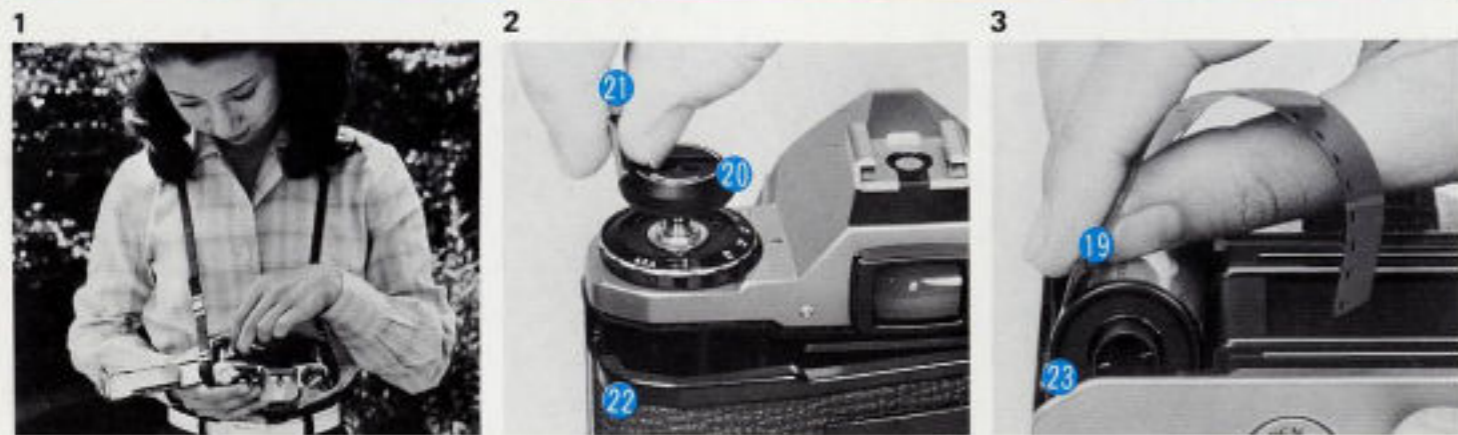
こういう調節をしなくてすむように、3 図で絞りを指定したわけです。

6 図、左手でカメラをしっかり支え、右手はやや軽く持って、人差し指で静かに⑩のシャッターボタンを押しきると、シャッターがきれます。被写体を変え、ピントも合わせ直してくり返して下さい。カメラの持ち方については20~22ページをごらん下さい。

7 図、カメラを使わない時は、⑬の巻上げレバーを押し込んで下さい。ファインダー内のLEDは消え、電池のむだな消耗を防げます。

このほか、ストロボやセルフタイマーを使いたい場合は、23ページの目次を見て、指定のページをお読み下さい。

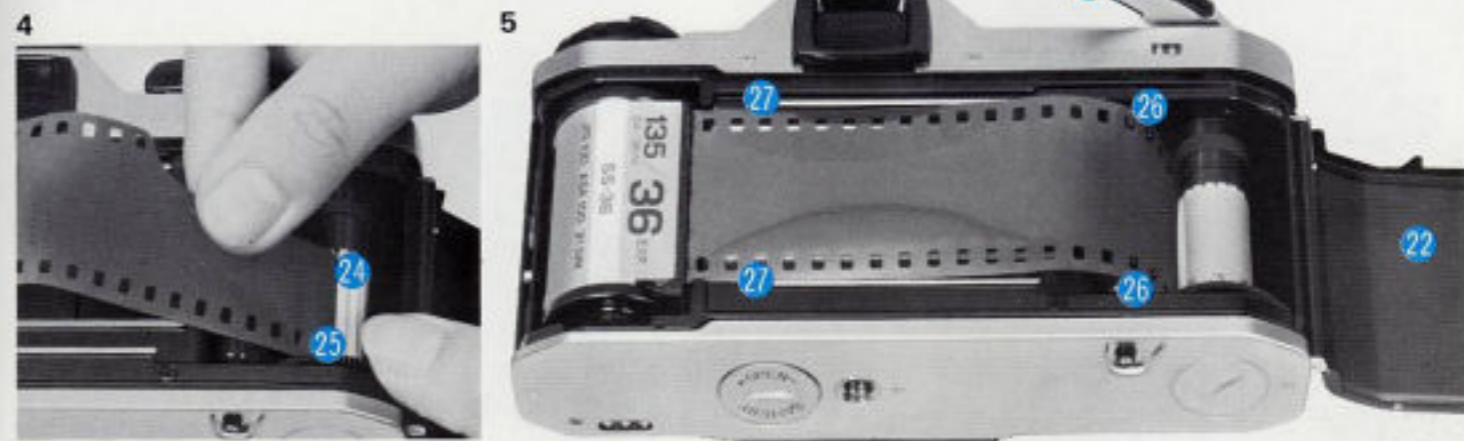
フィルムの入れ方



フィルムは市販の35ミリフィルムならば、何でも使えます。その種類は56ページにくわしく書いてあります。国産フィルムの場合、カラープリントにするフジカラーF II、さくらカラーIIと、黑白写真にするネオパンSS、コニパンS Sが最も多く使われています。

フィルムをカメラに入れる時、慣れないと失敗することがありますから、18、19ページの巻戻しまでを含めて慎重に行なって下さい。

- 1 図、晴天の屋外でフィルムを出し入れする時は、3 図の⑱のパトローネ〔フィルム容器〕のテレンプ〔フィルムをはさんでいる黒い布〕のすき間から、直射日光が入ることがあります。必ず太陽を背にして、自分のからだの影にカメラを入れて行なって下さい。〔1 本目は自宅でゆっくり入れた方が無難です〕
- 2 図、⑳の巻戻しノブについている㉑のクランクを起こして上に引っ張りあげると、㉒の裏ぶたがあきます。



- 3 図、⑱のパトローネから出ているフィルムの先端を上にして、㉓のフィルム室に入れ、㉔の巻戻しノブを元通り押し込みます。
- 人によっては4 図のように、フィルムの先端を㉔のスプールのすき間に入れてから、パトローネを㉓のフィルム室に入れても構いません。
- 4 図、フィルムの先端を少し引き出して、㉕のスプールのつばに接するようにして、㉔のすき間に充分さし込みます。すき間はどのすき間でも構いません。

5 図、⑬の巻上げレバーを少し巻き、フィルム の両側にある穴〔パーフォレーション〕に㉔の歯車〔スプロケット〕がかみ合せてフィルムを送るのを確認します。この時、フィルムが㉔の光ったレールの間にはまるようにします。㉒の裏ぶたを押しつけると、音がして自動的にしまります。

6

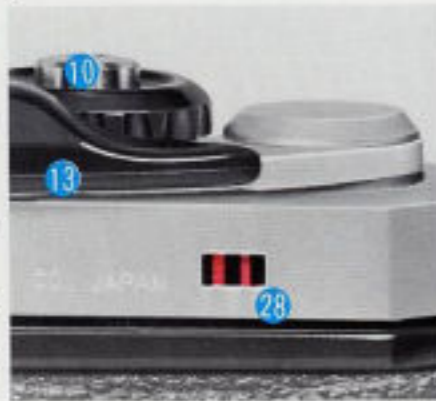


6 図、次の操作に移る前〔前ならいつでも構いません〕にレンズキャップは必ずはずし、⑭の絞り環を反時計方向に回して、最も数の小さい、例えば、1.7、1.4、1.2にしておきます。

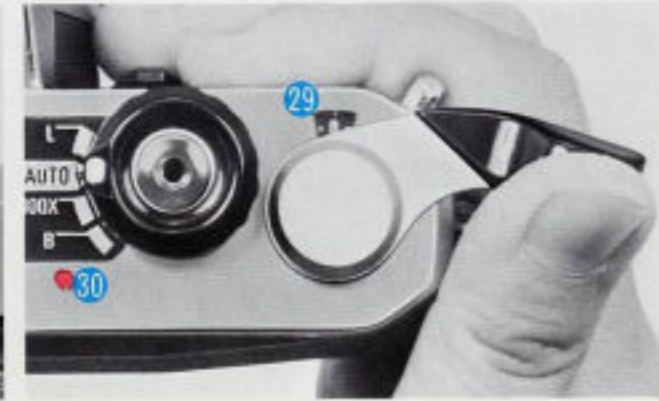
もしレンズキャップをしたまま、次のシャッターをきくと、シャッターが開き放しになり、閉じなくなることがあるからです。〔万一誤ってそうなったら、シャッターダイヤルを24ページ2図の方法でAUTOからはずせば、必ずシャッターが閉じます〕

また絞り環を小絞り〔数が大きい、例えば、

7



8



22や16にしておくと、シャッターが遅い速度になり不便だからです。

空写し

7 図、⑬の巻上げレバーを止まるまで巻き、⑰のシャッターボタンを押してシャッターをきります。次に⑳のフィルム送り・巻戻し確認窓を見ながら、⑬の巻上げレバーを巻くと、㉑の中の赤いタテじまが左右にゆれます。ボディの中でフィルムが正しく巻かれていることを示します。

8 図、㉑の枚数盤を見ると、0ゼロになります。次に巻上げると1〔2と0の間の点〕になり撮影ができます。以後巻上げるたびに、7 図の赤いタテじまは左右にゆれます。もし動かなかったら5 図のフィルムの入れ方が正しくないからです。裏ぶたをあけて、フィルムを入れ直して下さい。

ここまでの操作を空写しといいます。フィルムを入れる時、パトローネから出ている部分には既に光が当たっていて撮影に使えないからです。

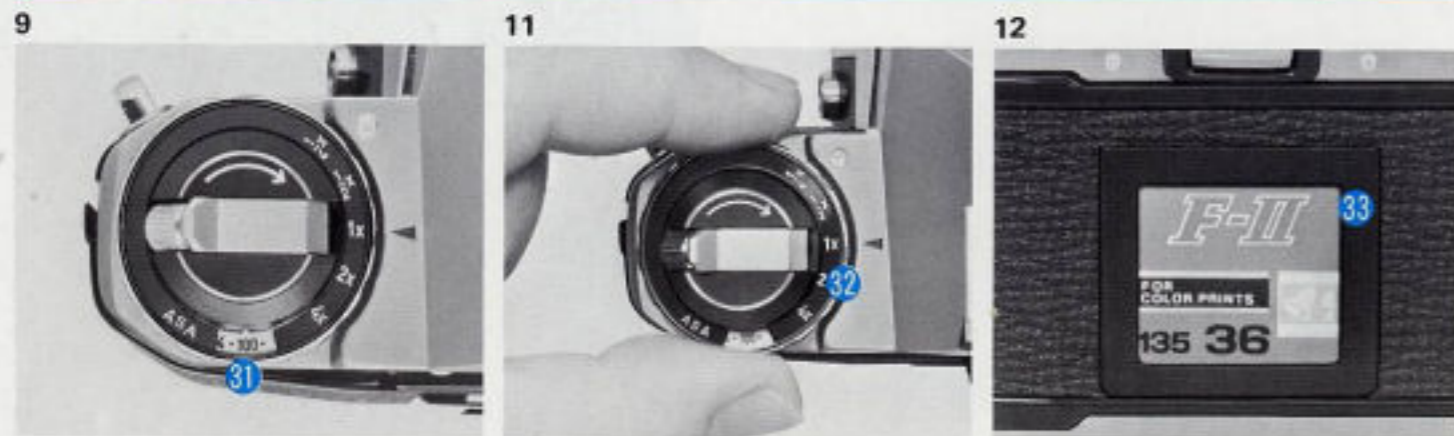
フィルムを巻上げると、㉓のフィルム巻上げ表示窓は赤になり、シャッターをきると黒になり外観から巻上げの前後を判別できます。

フィルムには36枚どりから12枚どりまであり、長い方が経済的ですが、撮影枚数が少ないため、カメラの中に2、3ヵ月以上〔特に梅雨、夏〕入れておくと、写真が劣化しますから、適当に選ぶ必要があります。

85ミリ・F1.8、絞り・F16、 $\frac{1}{60}$ 秒、エクタクロームX、▶
SMCクローズアップレンズT80



フィルム感光度を合わせる



9図、国産フィルムで多く使われているフィルムは、カラーも黑白も感光度は100で、⑨のASA感光度目盛は100に合わせてあります。

もし感光度の異なるフィルムを使う時は、必ず合わせ直して下さい。

フィルムの光の感じ方には、速いものと遅いものがあり、これをASA感光度で現わし

数に比例して感光度が速くなります。例えば、400は100の4倍ですから、シャッター速度は $\frac{1}{4}$ ×のより速いシャッターを使えます。

⑨のASA感光度目盛は、中間の数字が略されていて、くわしくは10図のように、2倍で3目盛になっています。例えば、80は100と64の間の点に合わせます。

11図、ASA感光度はフィルムの外箱に必ず書いてあります。[56ページにも記載] 100以外のフィルムを使う時は、⑪のASA目盛環の外側リングを持ち上げて回し、希望のASA目盛を窓の中心〔赤指標〕に合わせて指を離すと固定されます。

メモホルダー

12図、自分がカメラに入れたフィルムが何であるかを忘れないように、フィルム外箱のふたをちぎり取って、⑫のメモホルダーに入れておくと安心です。ただし、もし別の種類のフィルムに入れ替えた時は、必ずメモホルダーも入れ替えないとかえって誤ります。

〔「1600というフィルムは売っていないのになぜあるのか？」右図のような写真は、トライXパン〔ASA400〕を1600で撮影し、増感現像するのです〕

135ミリ・F2.5 F2.5開放、 $\frac{1}{500}$ 秒▶



ソフトケースの使い方

1



1 図、ソフトケースは、③④の前ぶた、③⑤の底ぶた、それとボディに付属している③⑥の肩ひも、留め金、環、③⑦のショルダーパッドからできています。

2 図、前ぶたはうしろ側の二つのホックであけられます。

3 図、カメラを底ぶたに入れ、③⑧の底ぶた側のフックを③⑨の三角金具にひっかけると、カメラは底ぶたと組合せられます。

2



3



4 図、③⑥の肩ひもは、両はしに 5 図、④⑩の留め金と④⑪の環がついています。片方の留め金と環を一旦はずし、折ってあった内側を上にして、③⑦のショルダーパッドの一方の穴から通し、他の穴から引き出します。こうすれば肩ひもとショルダーパッドははずれません。ショルダーパッドは肩にかけた時のすべり止めです。

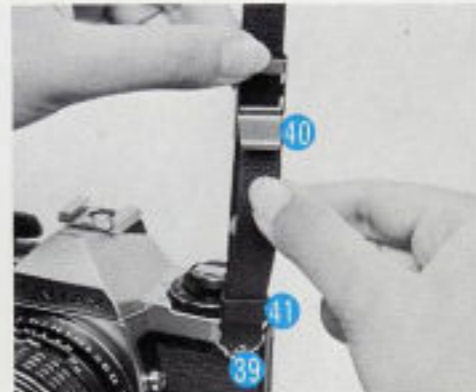
4



5 図、折ってあった内側を上にして、③⑨の三角金具に通し、折り曲げて④⑩の環に通し、④⑩の留め金に通して、ばね板を倒して固定します。他の肩ひもの端も同様にして三角金具につなぎます。肩ひもの長さは、好みによって自由に変えられます。

このように折り曲げた先が外側に出るようにしないと、体裁も悪く、長さを変えたり、肩ひもをはずす時に不便です。

5



6



6 図、これでケースの準備ができ、前ぶたをあけたままで撮影ができるので、速写ケースと言います。

7



7 図、カメラを縦位置にすると、前ぶたがじゃまになることがあるので、前ぶたと底ぶたははずせるようになっています。③④の前ぶたには半円の凸部があり、③⑤の底ぶたには上下逆の半円の凹部があり、ふだんはこれが組み合っています。

前ぶたを約180度回すと、凸部と凹部が一致しますから、少し引くとはずせます。

8



8 図、④③の丸型レンズフード〔別売り、ねじ込み〕は、レンズに逆向きにかぶせられます。レンズのピントリングを∞に合わせておくと、フィルター1枚〔偏光フィルターを除く〕をつけたままでもソフトケースに入ります。ただし、この場合レンズキャップはつけられません。

記念撮影のしかた

どこで撮ったか？がわからないと後で困ります。記念撮影は人物をきれいにとることも大切ですが、その場所の特徴を示す背景を探すのが第一のコツです。

先ずファインダーをのぞいて、適当な背景を探し、そこに人物を案内するのです。

しかも人物が逆光では、顔の大部分が黒くなって誰だかわかりにくくなりますから、晴天の場合は、太陽が自分のうしろ側になる位置を探します。



・良い例



・悪い例

フィルムの終りと巻戻し



1 図、フィルムに表示してある枚数を少し超えると、大抵は巻上げの途中までしか巻上げられません。枚数は②⑨の枚数盤でわかりますから、それ以上無理に力を入れて巻上げてはいけません。

フィルムの巻戻し

35ミリ判カメラは、パトローネから裸のフィルムを引き出してスプールに巻とりますから、フィルムの終りまで撮影したら、次の巻戻しをしなければなりません。



2 図、カメラの底ぶたにある④④の巻戻しボタンを押すと凹み放しになります。

3 図、②⑩の巻戻しノブについている②①の巻戻しクランクを起こして、矢印の方向に巻きます。36枚どりフィルムで30回以上、24枚どりフィルムで23回以上巻くと急に手答えが軽くなるので巻戻しが終わったことがわかります。



10ページ7 図のフィルム送り・巻戻し確認窓の赤いしまが巻戻ししている間は左右にゆれ、巻戻しが終わると止まるので巻戻しが終わったことがわかります。

次いで8 ページ2 図のように、裏ぶたをあけてフィルムを取出します。パトローネは必ず元のケースに入れて下さい。〔光線もれを防ぐため〕



もし巻戻しを忘れて、裏ぶたをあけた場合

決してあわてて放置してはいけません。フィルムの感光膜はかなり不透明なものですから、すぐ裏ぶたをしめれば、最後の4、5枚以外は助かります。とり直しのできる被写体ならば、次に新しいフィルムを入れてとり直せばよいのです。

カメラの持ち方

1



横位置： 左ひじをからだにつけ
左手でカメラをしっかり支える

2



縦位置： 右ひじをからだにつけ、左手で
カメラをひたいにしっかり押しつける

3



縦位置： 左ひじをからだにつけ
右ひじを充分に上げる

A



悪い持ち方の一例

B



ピントがよくない写真ができる原因の十中八、九までは、カメラぶれとピントの合わせ方がよくないためです。特にカメラぶれはカメラが何であってても現実には多いので、使う方の注意が必要です。

横位置、縦位置を通じてカメラをしょうずに持つコツは、シャッターボタンを押さない方の手、つまり左手でしっかり持ち、ファインダー窓や裏ぶたを顔にぴったり引きつけます。右手はやや軽く持って、

この三個所で三脚の役目をするようにします。

A図のように顔からカメラが離れてはいけません。

シャッターボタンを押す右手に力を入れると、かえってシャッターをきる時にカメラが動くのです。

シャッターボタンは静かに押し、いっぺんに押しきってはいけません。

1図の横位置の場合、右手のくすり指をボディ-

の下側のふちに当てると、しっかり持てます。

縦位置の持ち方には、2図、3図のように2種類あって、どちらか好みの方を選べばよいのですが、3図の持ち方は右肩にバッグを下けている時はできませんから、バッグは左肩に下げて下さい。

2図の場合は親指でシャッターボタンを押さなくてははいけません。B図のように人差指で押そうとすると、右手でボディの上下をはさんで持てないの

ていけません。

1図の横位置では必ず人差指でシャッターボタンを押しますから、2図の縦位置では手を持ち変えなくてはなりません。

ピントがよい、きれいな写真をとるために、カメラの持ち方、シャッターのきり方は十分に練習して下さい。

4



4 図、シャッターの練習は、鏡に向かって、鏡の中のMEにピントを合わせてシャッターをきります。一瞬目ばたきをしてシャッターがきれた直後、ファインダーで見えるカメラの像が動いているようでは、カメラぶれしたものだと思ってよいでしょう。フィルムを入れずに練習する時は、 $\frac{1}{50}$ 秒のような比較的遅いシャッター速度を用います。

22

5 図、カメラぶれやピント合わせがよくないのは、引伸してみなくても、10×の虫めがね[ルーペ]をカメラ店で求め、フィルム[ネガフィルム、またはカラーズライド]を透視して見ると、ピントを合わせたはずの部分がはっきりしていないのでわかります。

5



目次

•一般的な撮影には

レンズ装着	2・3
電池を入れる	3・4
ショートコース	5～7
フィルムの入れ方、空写し	8～11
フィルム感光度を合わせる	12・13
メモホルダー	12・13
ソフトケースの使い方	14～16
フィルムの終りと巻戻し	18・19
カメラの持ち方	20～22
ストロボを使うには	24・25
セルフタイマーを使うには	26・27

•MEハイクラスコース

絞り優先	28
測光範囲	29
露出倍数ダイヤル	30
露出調節のコツ	30～33
露出計スイッチ	34
シャッターボタンロック	35
Bの機能	35
タイム露出をするには	35

電池消耗警告	37
電池の寿命	37
電池消耗時のシャッター	37
電池についてのご注意	37
ピント合わせと視度調整	38・39
赤外線指標	40
絞り	
自動絞り	41
Fナンバー	42
被写界深度と被写界深度目盛	43・44
開放測光と絞り込み測光	46
閃光電球を使うには	47
レンズの着脱	48・49
二重〔多重〕露出のしかた	49
カメラ取扱い上の注意	50～53
従来のタクマーレンズを使うには	54・55
フィルムの種類	56
索引	57～59
機能諸元表	60・61
部分名称	62・63
営業所・サービスセンター案内	64・65

23

ストロボを使うには



1 図、オートロボやスーパーライト II 型のようなホットシュー用のストロボは、④⑤のホットシューにさし込んでから固定します。

2 図、④⑥のシャッターダイヤルは、右手の人差指で④⑦の白いピン〔指標〕を押しながら、親指と中指でダイヤルをはさんで持ち、100×に④⑧の指標を合わせます。この場合、ファインダー内表示のLEDは点灯しません。

100×からAUTOに戻すときは、白いピンを押しする必要がありません。

3 図、ホットシュー用でない旧型のクリップオンタイプのストロボやブラケットタイプのストロボの場合は、④⑧についている黒いキャップをはずし、Xターミナルにストロボのシンクロコードをさし込みます。

シンクロターミナルに黒いキャップがついてますのは、ホットシューにつけたストロボが発光する瞬間には、ターミナルにも電流が流れるからです。ただし、ターミナルは回りの環より1ミリも低くなっていて、普通に指をふれたのではさわりませんが、指が濡れているような場合、特異体質の方が万一ふれた場合に若干感電するので、安全保障のために特にかぶせてあるものです。

AUTOでストロボ撮影することは、ファインダー内表示のシャッター速度が、60[$\frac{1}{60}$ 秒]より下側のLEDが点灯する場合に限って使用可能です。例えば、オートロボにASA100のフィルムを使った場合、オートロボのオートF4、またはF8で、シャッター速度の表示が60、または30になる場合には手持ちで撮影ができますが、若干露出オーバー目になります。

「水中バレー劇場」東京都、読売ランド
85ミリ・F1.8、絞り開放、 $\frac{1}{60}$ 秒、
ハイスピードエクタクローム(ASA320に増感現像)。



セルフタイマーを使うには

セルフタイマーは、自分も被写体になる時に使います。

1



1 図、カメラを三脚につけます。もし、レンズの一部が三脚の雲台に当たる時は、付属の三脚用補助板を三脚ねじにかぶせて [50 ページ 1 図] から、取つけて下さい。

フィルム巻上げ後、④のセルフタイマーレ

2



バーを、手を放しても止まる位置まで、前から見て反時計方向に回します。次に同じセルフタイマーレバーを戻すと、約 4 ~ 12 秒後にシャッターがきれます。この時間は④のセルフタイマーレバーを回す角度の大小に比例します。

セルフタイマーを使う時は、ファインダー窓から入る光のためにシャッター速度が速くなって、露出が不足になることがありますから、付属のファインダーキャップをファインダー窓枠にかぶせて下さい。

2 図、セルフタイマーは三脚を用いなくても、アクセサリーのレフコンバーター M [別売り] を用いれば、上からファインダーをのぞけますから、丈夫な台の上に置いても使えます。ただし、台そのものが写らないよう台の端近くに置かねばなりません。

カメラの向きは、ボディー、またはレンズの下に、レンズキャップ、固い懐中品 [ライター、マッチ箱、名刺、鍵など] を置いて調節することができます。



IME

ハイクラスコース

いよいよMEの特長
すべての機能を
使いこなすコースです

カメラ・ライフを充分に
お楽しみいただくため
ぜひお読み下さい。

絞り優先

ショートコースに挙げた絞りは、便宜上最も多く使われる絞りです。実際にはファインダー内のLEDが1000〜1〜8 Sの間で点灯すれば、絞りはどの絞りでも、計算上は適正露出で撮影できます。42〜44ページの被写界深度も参考にして絞りを選びます。

その時、ファインダー内のLEDが示すシャッター速度が、自分の希望する速度と異なる場合は、絞りを変えて自分の希望するシャッター速度通りか、なるべく近づけることができます。



このようにMEは、絞り優先の自動露出カメラですが、絞りを先に決めても、わずかな手間を加えるだけで、好みのシャッター速度で撮影することもできます。

測光範囲

ASA100、50ミリ・F1.4レンズを用いた場合、EVI [F1.4・1秒]〜19 [F22・ $\frac{1}{1000}$ 秒]の範囲の測光精度を保證します。1図のASA100の場合、F1.4・2〜8秒、F2・4〜8秒、F2.8・8

測光範囲

秒以外のすべての絞りとシャッター速度の組合せて、測光精度を保證するわけです。ただしこれらの場合もLEDは点灯しますから、使えないわけではありません。

ASAが変化すると、測光精度保證範囲が変ります。例えば、ASA25の場合は、2図の  の部分は保證できません。ASA400の場合は、2図の  の部分は保證できませんが、いずれの場合もLEDは作動しますから、事実上は大変に広い測光範囲を持っているわけです。

被写体が暗くて、絞りを小絞りにした場合、一番下のUNDERが点灯することがありますが、シャッターがきれないわけではありません。36ページの作例を見て下さい。

1

シャッター速度 F	8秒	4	2	1	1/2	1/4	1/8	1/15	1/30	1/60	1/125	1/250	1/500	1/1000
1.4														
2														
2.8														
4														
5.6														
8														
11														
16														
22														

測光精度保證範囲

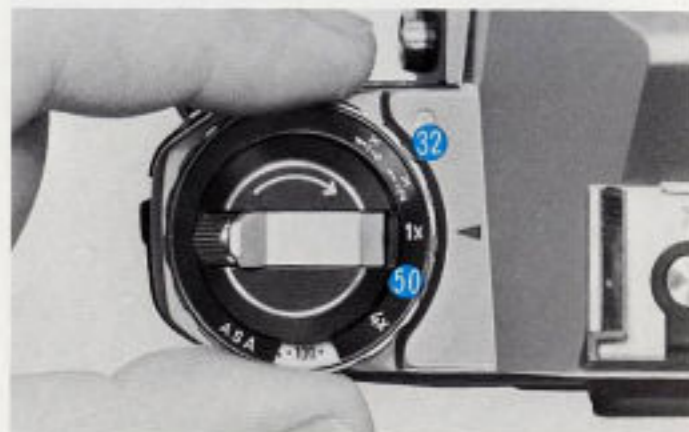
2

1.4														
2														
2.8														
4														
5.6														
8														
11														
16														
22														

測光精度保證範囲

露出調節のコツ

1



露出倍数ダイヤル

1 図、⑤0の露出倍数ダイヤルは、4×、2×、1×、 $\frac{1}{2}$ ×、 $\frac{1}{4}$ ×とあり、③2のローレット環で回せます。ただし、ASA1600の場合の $\frac{1}{2}$ ×、 $\frac{1}{4}$ ×と、ASA12の場合の2×、4×は使えません。ふつうの撮影には1×のままでよいのです。31~33ページのような場合にご利用下さい。4×、2×、 $\frac{1}{2}$ ×、 $\frac{1}{4}$ ×にすると、ファインダー内のシャッター速度表示もそれに従って変化します。

30

2-A



2-B



2 図、露出計が正確ならば、どんな被写体でも適正露出がえられる、と思う方がいますが、2 図A、Bを比べるとよくおわかりのように、この明部と暗部の明るさが同じである以上、面積の割合がどう変わっても、適正露出に変りはありません。しかし露出計で測れば、明部と暗部の面積の割合が違うため、大いに測定値が変わってきます。

2 図・A、Bの場合、MEの正確な露出計で計ると2倍も違います。

3



3 図、曇天や白っぽい雲が多い晴天の場合、空が画面の中で多くの面積を占める時。曇天の場合は空と地上の物の明るさが大いに違います。地上の物に適正露出を与えるために、2×または4×。

雲一つない快晴の日、地上は太陽の直射光を受けて特に明るいのですが、澄みきった青空は少しも明るくなく、日の当たった地上の物より暗い場合があります。

4



4 図、晴天の逆光の空が入っている場合、逆光の空は順光の空より明るいのです。地上のものは太陽の影の中に入っているものが多く、太陽が逆光で当たっている部分は順光が当たる場合より明るいから、逆光の場合は、露出不足になりがちです。2×または4×。

太陽が画面の中に入っていて、しかも地上のものも露出不足にしたいくない場合は、4×、ないし更にASA感度目盛を半分、または $\frac{1}{4}$ に下げます。

31

5

電池の性質

電池の種類と交換の方法

電池は使用するために使われて消耗します。4ページの4図の状態で、コンパクター内の電池が枯れたら、全く直りなく使えたら電池が消耗したと判断できず、早速電池を交換して下さい。

電池の寿命は、使用回数によって一定ではありませんが、5つに使用して約15年、コンパクターは約1万回です。製品の寿命を延ばすために保存する時の寿命は約2万回です。

電池交換時の注意事項

本文の電池は露出計の電池としてのみ使っています。電池が消耗したら、コンパクターはメカニカルコンパクター（機械シャッター）なので、通常は手動します。露出計を測ることはできませんから、経験によって露出計のコンパクターと交換して撮影します。

電池についてのご注意

1. 電池をお取りのりな場合は、自動の露出計に入らずにREMARKS1画面で確認して下さい。これは電池コンパクターの製造年を示します。例えば、1000002文字は、10000の1文字は西暦（例えば、1978）の表記のためです。つまり100001011を意味します。2002101011は11です。

電池を交換する時は、なるべく1年以内の古い電池のものをお使い下さい。

2. 電池を入れる時は、電池の向きを正しく入れて下さい。

3. 電池の交換は2個とも同時に行って下さい。

4. 電池を交換したら、上記の状態で必ずコンパクターを充電して下さい。

5. リー、電池が手袋です。念のために指輪、腕時計などを外して下さい。

6



6 図、晴天の順光雪景の中の人物。白く輝く雪に露出を合わせれば、人物に対しては露出不足になるのは当然です。2×

順光というのは逆光の反対で、カメラの向きに対して左右各各60~70度ぐらいの範囲で、カメラの後方から光が当たっている場合です。

7



7 図、黒バックの舞台〔実際は黒くなくても、光が当たっていないので黒く写る〕で、スポットライトが当たっている人物。1/2×または1/4×

露出計は暗いバックを含めて測りますから、測った値はスポットの当たっている人物だけを測るより低くなり、結果として露出オーバーになってしまうからです。

8



8 図、常緑樹、ないし色の濃い葉。黒土、樹の幹などが被写体の大部分をしめている場合。これらのものは反射率が低いので、露出計で測った通りに露出するとオーバーになります。1/2×。

要するにファインダーをのぞいて構図を決めたら、明部と暗部の割合を見、どの部分を最適露出にしたいか？ということを考え、調節を要すると思ったら、露出倍数ダイヤルを利用して下さい。

9



露出計スイッチ

シャッターボタンを少し押すと、スイッチがonになり、LEDが点灯します。その場合は指を離すと、スイッチはoffになり、LEDは消えます。

巻上げレバーを予備角まで引出し、シャッターボタンを少し押すと、巻上げレバーを収納しない限りonになっています。この場合、シャッターボタンの高さは一段低くなっています。速写性を増しています。

しかしLEDを点灯し放しにしておくと、電池がむだに消耗しますから、撮影しない時は6

10



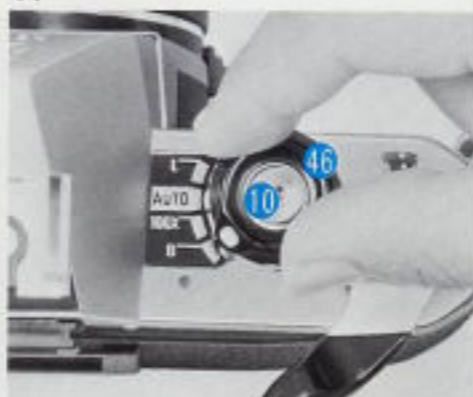
ページ7図のように、巻上げレバーはなるべく収納しておいて下さい。

9図、巻上げレバーを収納しておいても、シャッターボタンを少し押すとonになるため、巻上げレバーを巻上げておけば、ケースから急いで出してもすぐ自動露出ができます。

シャッターボタンロック

10図、46のシャッターダイヤルにある47のピン〔指標〕を人差し指で押しながら、親指と中指でダイヤルをはさんで持ち、時計方向に回し

11



て、Lに47の指標を合わせると、10のシャッターボタンが押せなくなり、同時に露出計のスイッチがoffになります。うっかりシャッターボタンが押され放しになって、電池をむだに消耗したり、フィルムのむだ使いを防止できます。

Bの機能

11図、46のシャッターダイヤルを10図と同じように持ち、反時計方向に止まるまで回して、Bに指標を合わせるとB〔バルブ〕になります。10のシャッターボタンを押すと、シャッターが開き、手を離すとシャッターが閉じます。Bはメカニカルシャッターですから、電池は消耗しません。LEDも点灯しません。1秒以上十数秒ぐらいの長時間露出に用います。

タイム露出をするには

シャッターダイヤルはBにし、ペンタックス・ケーブルリリースを用いてシャッターを開き放しにします。〔くわしくは同封の「アクセサリ

ー」をごらん下さい〕

Bもタイムも、三脚か丈夫な台が必要です。Bには一般にケーブルリリースを用います。

LEDの点灯について

ケイ光灯の照明や光る波のような被写体の場合、とまり合った2個のLEDが同時に点灯することがあります。

カラーフィルムの相反法則不規について

MEは8秒までの長時間露出ができます。リバーサルカラーフィルムの場合、1秒以上の露出をしますと、露出不足になり、色再現性も変化しますから、露出倍数ダイヤルで露出をふやす必要があります。〔コダックのカラーフィルムについては、「コダックのカラーデータガイド」の和文解説〕をごらん下さい〕



電池消耗警告装置・電池の性能

電池消耗警告装置

電池は使用するに従って消耗します。6ページ5図のファインダー内のLEDがシャッターボタンを少し押しても、点滅するようになったら消耗した証拠ですから、早速電池を交換して下さい。

電池の寿命

使用条件によって一定しませんが、ふつうに使って約1カ年、シャッター回数にして約1万回です。上記の消耗警告を無視して用いると、LEDは点灯しなくなり、電池が消耗したことを示します。新品の電池を使用しないで保存する時の寿命は約2カ年です。

電池消耗時のシャッター

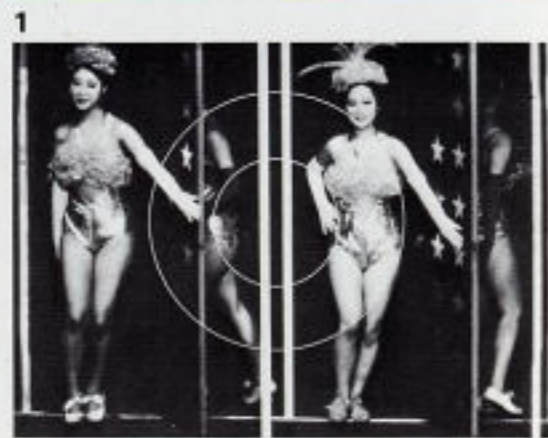
MEのシャッターは、AUTOの場合は電気シャッターですから、電池が消耗すると約 $\frac{1}{1000}$ 秒になります。100×〔 $\frac{1}{1000}$ 秒〕とBはメカニカル〔機械〕シャッターですから、電池が消耗しても正しく作動します。ただし露出を測ることが

できませんから、経験によって絞りを求めます。例えば、昼間の屋外晴天ならば、絞りは8か11です。曇天で4か5.6です。

電池についてのご注意

- 1、電池をお求めになる場合は、台紙の裏に記入してあるREMARKS〔注意〕をごらん下さい。これは電池メーカーの製造年月を示します。例えば、106の頭2文字は月、終りの1文字は西暦〔例えば、1976〕の末尾の6です。つまり1976年10月を意味します。電池を交換する時は、なるべく1年ぐらい以内のものをお使い下さい。
- 2、電池を入れる時は、電池の両面を乾いた布でよくふいて下さい。
- 3、電池の交換は2個とも同時に行なって下さい。
- 4、電池を交換したら、4ページ6図の方法で必ず点検して下さい。
- 5、万一、電池が不良ですと、急激に消耗し短い寿命しかありません。

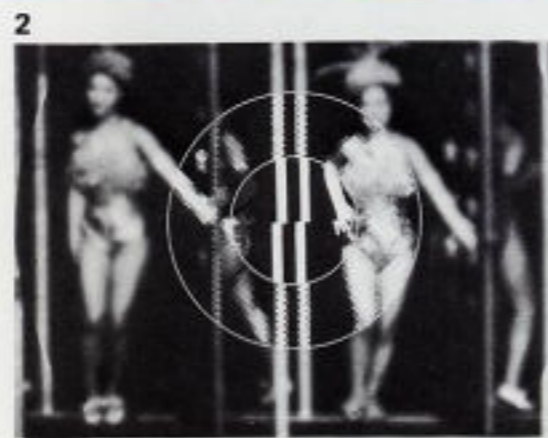
ピント合わせと視度調整



6ページのショートコース・5図にあるように、MEのファインダー視野の中央には、スプリットイメージと、その周囲のドーナツ状の部分にマイクロプリズムがあり、そのいずれでも特にピントが合わせやすくなっています。

1図、ピントが合っている場合

スプリットイメージは、横位置の場合、上下に分割され、タテ線にピントを合わせると、ただのはっきりした1本棒になります。マイクロプリズムは、ピントが合っている時は、ただの明るいはっきりした像になります。



〔東京都
国際劇場〕

2図、ピントが合っていない場合

スプリットイメージはピントが合っていないと、上下の像がおのおの左右にずれますから、上下像合致式と言います。距離計連動式の二重像合致式とは全く違いますから、二重像合致式のカメラを経験された方はご注意ください。

マイクロプリズムはピントが合っていないと、ぎざぎざの像になります。

スプリットイメージとマイクロプリズムのいずれを用いるかは、ユーザーのご自由です。

が、スプリットイメージは、横位置で画面の中央にタテ線が、縦位置ではヨコ線がある場合にピントが合わせやすく、その他の場合はマイクロプリズムの方が多く使われます。

ピント合わせは、スプリットイメージやマイクロプリズム以外のどこの部分でも合わせられるのがMEの特長です。構図を決めた後被写体の中でピントを合わせたいものがどこにあっても、ピントが合わせられることをお忘れなく。

3図、目の視度がMEのファインダー視度に合っていないと、ピントが合わせにくくなります。MEのファインダー視度は、ピント面で -0.5 ディオプリー[D]、ファインダー内表示のシャッター速度で -0.8 Dです。つまりファインダーの像は $2\text{m} \sim 1.25\text{m}$ の距離にできるわけです。この距離は被写体が遠くても近くても変わりありません。

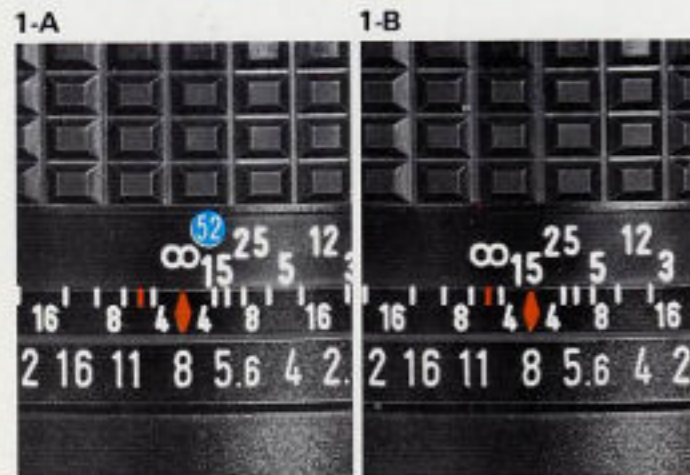
カメラを使用する時の状態〔めがねの有無、めがねの種類〕で、 $2 \sim 1.25\text{m}$ の距離にある字が人並みに読める方ならば、ピント合わせ

もしやすいのです。そうでない方は、⑤のSMC視度調整レンズMをお求めになり、ファインダー窓のアクセサリ取り付け溝にさし込みます。くわしくは同封の「アクセサリ」をごらん下さい。

3



赤外線指標

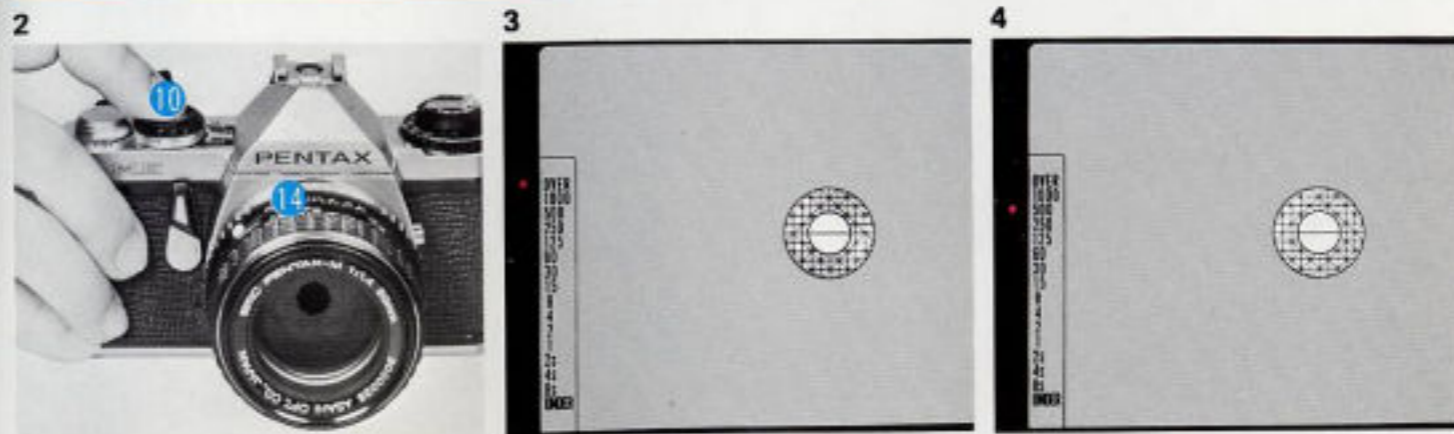


赤外線写真は赤外線フィルムと、R 25、またはO2フィルターを用いれば誰でも撮影できます。1図、赤外線は波長が長いため、焦点距離が若干伸びますから、目でピントを合わせたまま撮影すると、やや後ピン〔ピントを合わせた位置より遠くにピントが合うこと〕になります。そのためズームレンズを除くすべてのSMCペンタックスレンズには、被写界深度目盛の中に、赤線で赤外線指標を示してあります。



1図・Aのようにピントを合わせた後、52の距離目盛〔∞とは限りません〕を見て、それを1図・Bのようにピントリングを少し繰り出して赤外線指標に合わせればよいのです。

絞り

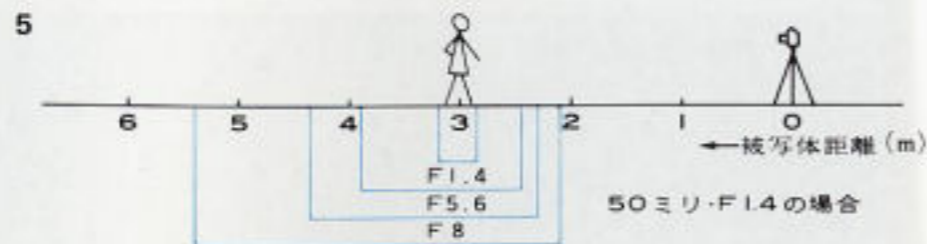


自動絞り

2図、自動絞りのレンズは、ふだん絞りが開放絞りになっているので、外からは絞り羽根が見えません。カメラを正面から見て、14の絞りを例えば5.6ぐらいにして、10のシャッターボタンを押してみると、自動絞りの羽根が瞬間的に開閉するのがわかります。

このように絞りはレンズを通してフィルムに届く光の量を調節する役目と、もう一つは42~44ページの被写界深度の調節という役目を持っています。

3図、光量を調節する必要があることは、最も多く使われているASA 100のフィルムを用いる場合、例えば絞りを1.7や1.4にして晴天の昼間屋外でカメラを向けますと、シャッター速度を示すLEDが一番上のOVER〔露出オーバー〕を示し、適正露出がえられません。少なくとも絞りを2.8か4にしないと、4図のように1000より下のLEDが点灯しません。



Fナンバー [F]	1	• 1.4	• 2	• 2.8	• 4	• 5.6	• 8	• 11	• 16	• 22	• 32
中間絞り [F]	1.2	1.7	2.4	3.4	4.8	6.7	9.5	13.5	19	26	

Fナンバー

絞りの数値はFナンバー、またはF値といい、上表の上段の系列で1段階ごとにFの数が増えるほど、レンズを通る光量は約半分になります。つまりシャッター速度を2倍にして露出が同一になるわけです。下段はその中間絞りのFナンバーです。

ここで特に注意しなければならないのは、レンズを通る光量はFナンバーの二乗に反比例することです。例えば、2と4では光量は $\frac{1}{4}$ になり、シャッター速度を4倍にしなければなりません。

SMCペンタックスレンズは、上段の系列の場合、

開放絞りとその次の絞り、最小絞りとその前の絞りの間以外には、すべての中間絞りのクリックストップ〔カチカチといって止まる〕が入っていて使いやすくなっています。F1.2レンズの場合、1.2と2の間のクリックストップはF1.7です。

被写界深度と被写界深度目盛

5図、被写界深度は、或る距離の被写体にピントを合わせた場合、その前後、ピントが合う範囲を言い、44ページの8図・1、2のように絞れば絞るほど深くなります。バック〔背景〕をぼかしたい時は、絞りをなるべくあけ



〔Fナンバーが小さい〕、バックまでピントを合わせたい時は小絞り〔Fナンバーが大きい〕にします。

6図、SMCペンタックスレンズには、ズームレンズ以外はすべて被写界深度を示す⑤の被写界深度目盛があって、この50ミリレンズの場合、3mにピントを合わせると、F8で約2.3mから約4.5mまでピントが合うことを示しています。〔4と8の間の線は5.6、8と16の間の線は11、F2の場合は4の半分、F1.4の場合は4の $\frac{1}{2}$ です〕



7図、被写界深度目盛は、パーティーなどの数人以上の撮影に利用できます。例えば、構図を決めた後、ピントを合わせたい人の中で最も近い人にピントを合わせて、その時の距離目盛を見ます。例えば、約2mとします。次に最も遠い人にピントを合わせると、その距離は3mとします。7図のように、2mと3mをはさめる絞りは8であることがわかります。オートロボのオートF8でとればよいわけです。

8-1 50ミリ・F1.4 絞りF1.4



8-2 50ミリ・F1.4 絞りF5.6



・良い例



・悪い例

風景写真のとり方

遠い被写体だけを写真にとると、その結果には大抵失望させられます。人間の目は遠近感の知覚にすぐれているのに反して、写真は1枚の平面になってしまうからです。遠景だけでなく、近景をとり入れると立体的になります。

・50ミリレンズに偏光フィルター使用。
「静岡県三津、木負湾、スカンジナビア号」

この作例は晴天ですが、曇天の遠景は写真に不向きです。その場合は遠景をバック〔背景〕として考え、近景、中景を主にして画面を構成した方が見ばえがします。

測光方式について



1

開放測光と絞り込み測光

1 図、SMCペンタックスレンズの内、ほとんどすべてのレンズの後部には、54の絞り連動レバーが出ていて、ボディ内の絞り連動カムと連動するものは開放測光式です。開放絞りのままの絞りに対して露出が測れます。

絞り連動レバーがないレンズは、絞り込み測光式ですから、ピントを合わせた後、実際に使用する絞りに絞って露出を測ります。

レンズそのものが開放測光式か絞り込み測光式かは、同封してあります「SMCペンタックスレンズ」の一覧表をごらん下さい。

アクセサリを使用した場合

開放測光式レンズにオート接写リングKを用いると、自動絞りも作動し、開放測光も連動します。その他の接写リングK、ヘリコイド接写リングK、オートベローズK、ベローズユニットKを用いると、すべて絞り込み測光になります。このように開放測光式のSMCペンタックスレンズでも、絞り込み測光式のアクセサリをレンズとボディの間にはさむと、絞り込み測光になります。

レンズの前に装着する各種フィルター、クローズアップレンズ、ステレオアダプターの場合は開放測光ができます。

閃光電球を使うには



2

MEにはFP級閃光電球用のFPターミナルがありませんから、フラッシュ撮影はなるべくストロボをご利用下さい。

もしお手持ちのストロボ〔例えば、オートロボ、ガイドナンバー24〕では、どうしても光量が足りないような場合にのみ、より光量の大き

いM級、またはFP級閃光電球の利用価値があります。

市販のシンクロ発光器〔フラッシュガン〕のシンクロコードを2図のように、48のXターミナルにさし込みます。

使用する閃光電球が何であっても、シャッター速度は $\frac{1}{60}$ 秒〔を含めて〕より遅いシャッター速度でないと、閃光電球の光量を有効に利用できないか、または照明むらを生じます。原則として $\frac{1}{60}$ 秒より遅いシャッターで手持ち撮影をすると、カメラぶれる恐れが多くなりますから、必ず三脚を使って下さい。

例えば、ある閃光電球のガイドナンバーが正味で32あったとします。被写体距離が8mとすると、絞りは4で適正露出になります。絞りを4にしてオートで露出を測ると、室内では約 $\frac{1}{60}$ ~ $\frac{1}{120}$ 秒になります。ただしこれは閃光電球がなくても適正露出を示すシャッター速度ですから、閃光電球だけの適正露出を足すと、露出はオーバー傾向になりますが、ネガカラーフィルムならば差支えありません。

レンズ着脱



レンズを交換したり、オート接写リングK、接写リングK、ヘリコイド接写リングK、オートペローズK、ペローズユニットKなどをレンズとボディの間にはさむためには、レンズを着脱しなくてはなりません。

装着については2、3ページに述べました。はずし方は、

1図、ボディを左手に持ち、右手の親指で⑥のレンズロックレバーをボディ側に押しながら、⑤のローレット〔指の下にある〕を人差し指の腹でおさえつけながら、反時計方向に

65度回すと、容易にレンズをはずせます。

レンズをはずした時に、AUTOでシャッターをきると、ミラーは上がりきりになり、シャッターが開き放しになることがあります。直ちにシャッターダイヤルをAUTOからはずして下さい。

2図、別法として、ボディを下から持った左手の中指、または人差し指で、⑥のレンズロックレバーを押しながら、右手は1図と同じようににぎって回してもはずせます。

3図、はずしたレンズを置く時は、前面を下にして置いて下さい。

屋外でレンズを着脱する時は、レンズにきずがつかないように、必ずレンズキャップとレンズマウントキャップをつけて下さい。

レンズ着脱の注意

MEはフィルムが入っていても、メタルシャッターでおおっていますから、いつでもレンズ着脱ができます。ただし屋外で太陽の直射光がマウントを通り、シャッターに直接当たるようにすると、反射光がフィルムに達することがありますから、直射日光は避けて下さい。

二重〔多重〕露出のしかた

MEでは、フィルムの位置が全くずれない完全な二重〔多重〕露出はできませんが、多少ずれてよいのならば、次の方法でできます。

1、最初の露出はふつうにシャッターをきります。
2、パトローネの中のフィルムのゆるみをとるため、巻戻しクランクを矢印の方向に止まるまで巻き、左手の親指で戻らないように押さえるか、多重露出の場合はテープで留めます。

3、このまま左手の小指、または他の指で巻戻しボタンを押し込んだまま、巻上げレバーを巻上げると、フィルムは送られずにシャッターだけセットできるわけです。三つの動作を同時にしなければなりません。

4、巻上げが終わったら、巻戻しクランクや巻戻しボタンから手を放しても、シャッターをきれば二重露出ができます。三重以上の場合には最後の露出の準備ができるまで、手を放してはいけません。

5、二重〔多重〕露出が終わった後は、レンズキャップをし、次の巻上げをして空写しを1枚します。こうしないと次の露出が二重〔多重〕露出の画面と少し重なることがあるからです。

カメラ取扱い上の注意

1、MEの耐温度性

約+50℃～-20℃ですが、耐寒性については次の点にご注意下さい。

- (1)、油が汚れて来ると、耐寒性はだんだん悪くなります。耐寒性を十分に保つためには分解掃除をし、新しい油を入れる必要があります。
- (2)、温度の急激な変化があると、カメラ内部に水滴を生じ、サビの原因になります。

温かいカメラを急に寒い屋外に持ち出した場合は、冬の窓と同じで内面に水滴を生じ、寒さがひどいとその水滴が氷ってしまいます。このようにカメラの温度を急に変化させることは禁物で、10℃の変化を少なくとも30分以上かけてやるようにしたいものです。寒い屋外から温かい部屋に入った時も、温かいへやから寒い屋外に出た時も、バッグやケースから急に出さないように注意します。

2、三脚を使用する時

三脚の雲台が大きいものにMEを取つけると、レンズの一部が雲台に当たって、回転部分が回

転できなくなることがあります。この場合は1図のように、付属の56の三脚用補助板をMEと雲台の間にはさんで取つけて下さい。

3、レンズやファインダー窓の接眼レンズ、フィルターは清潔に。

ホコリやごみはブローで吹き飛ばしてから、レンズ刷毛で払います〔2図〕。みだりにふくと、固いごみでかえってきずをつけます。指紋のよ



うなもの、ティッシュペーパーか、きれいな柔らかい布〔よく洗った木綿は案外よいので、予備の白木綿ハンケチをズボンの予備ポケットに入れておくことをおすすめします〕で、レンズの中央かららせん状にすみずみまで、ていねいにふきます。

息をふきかけてふく方法は、うまくするときれいにふけるのですが、ふき残りのないように注意して下さい。



3図のような特定のレンズクリーナーも有効です。シリコンクロスは、ポディーをふくもので、コーティングをしたレンズやフィルターをふいてはいけません。

一方、レンズのごみや汚れを必要以上に神経質に考えるのもご損です。数固の小さなごみはあっても写真の写りに影響しません。

レンズをはずして、明るい方に向けてすかして見て、先ず、くもり、汚れを見、次にごみを見て下さい。



4、ミラーやシャッター幕には手をふれない

4 図のミラーにつく小さなごみや汚れは、ファインダーでは見えないのですから、あまり気にする必要はありません。

5、カメラにショックを与えない

カメラを落したり、固い物にぶつけると、変形までしなくても、内部機構に悪い影響を与えることがあります。

6、カメラは防水カメラではない

ちょっと見には、そう簡単に水が入りそうにもありませんが、わずかなすき間から水は入りうるので、雨中の撮影や特に海水のしぶきにはご注意ください。消音ケース〔別売り〕はかなり防水にも効果があります。極端な水没品は修理不能になります。その代り、同一機種の場合は標準価格の72%で新品と交換致します。〔サービスセンターに限ります〕

7、カメラの保存場所

高温多湿でない場所、ごみの少ない場所がよいので、具体的には空気の流通がよい場所がよいのです。タンスや押入れの奥深くしまい込むのは、湿気のためにも良くありません。

8、三脚ねじの長さについて

三脚ねじ穴の長さは、5.5ミリ〔JIS〕になっています。従って5 図の三脚側のねじの長いものを無理にねじ込むと、カメラの三脚ねじ穴の底を押しして故障の原因になります。



9、みだりに分解や注油をしない。修理は当社で

MEは独特の機構を持った高級カメラです。万一故障の際には、確実な修理のために、当社で修理するようご指定下さい。

特にお急ぎの場合は、64、65ページの当社サービスセンターに直接お持ち下さい。郵送の場合は、6 図のようにカメラの化粧箱などを利用してしっかり包装し、書留小包便でお送り下さい。

保証期間中は保証書を同封することをお忘れなく。保証書がありませんと、本来は保証期間中であっても修理が有料になります。

10、ナンバー記録のおすすめ

旅行中に紛失したり、盗難に会った場合のために、携行の手帖などにカメラ名、底ぶたに彫刻してある7 図のボディ番号、8 図のレンズ名、レンズ番号を記録されることをおすすめします。届出はなるべく早く警察署へ。〔当社ではご愛用者の愛用者カードによって、全国各地の警察からのお問い合わせに答えております〕



従来のタクマーレンズを使うには

1



2



従来のタクマーねじマウントレンズは、マウントアダプターK〔別売り〕でMEに装着できますが、条件があります。

- 1、 ∞ の距離目盛はすべて合致します。〔無限大までの撮影ができます〕
- 2、自動絞りは作動しません。〔方式が異なるため〕
- 3、開放測光式レンズは絞り込み測光になります。
- 4、プリセット絞り、クリックストップ絞りのレンズは、従来と全く同じように使用できます。

マウントアダプターKの使い方

1 図、マウントアダプターKをタクマーねじマウントレンズにねじ込みます。〔反対にレンズをマウントアダプターKにねじ込んで構いません〕

3



2 図、アダプターの⑤の赤点をボディの③の赤点に合わせ、⑤のばね板がボディマウントの爪に当たらないようにしてはめ込み、時計方向に65度回すとロックされます。ただしこのロックは、ボディの⑥のレンズロックレバーとは関係がありませんから、ねじマウントのレンズを反時計方向に回すと、レンズだけがはずれ、マウントアダプターKはボディに残ります。

4



3 図、マウントアダプターKをとりはずす時は、⑤のばね板に親指の爪か、ボールペンのようなものの先端をかけて、中心に向かって押しながら反時計方向に65度回して引出します。

4 図、従来のスーパータクマー、SMCタクマーレンズの内、自動絞りのレンズは、⑭の絞りを希望の絞りにして、⑤の自動絞り解除レバーをAUTO〔A〕にしてピントを合わせてから、MAN.〔M〕に切りかえると、絞り込み測光で自動露出ができます。

フィルムの種類

カラーフィルムにはネガカラーとリバーサルカラーがあり、前者はカラープリントに用いられ、後者はカラーズライド〔映写用〕に用いられます。富士写真フィルムとコダックの製品では、「……カラー」はネガカラー、「……クローム」はリバーサルカラーと名称で区別しています。

ネガカラーフィルムと黑白フィルムは、一般にASA100級のもののが用いられますが、ストロボを使わないで室内のスナップをしたり、高速のシャッター速度〔 $\frac{1}{1000}$ 秒、 $\frac{1}{500}$ 秒〕で速い動体を撮影するには、より感度の高いフジカラーFII 400やトライXパン、SSSフィルムが適しています。

特殊フィルムは、文書、印刷物〔字のみ〕の複写にミニコピー、コニマイクロがありますが、写真、絵画〔印刷物を含めて〕の複写には解像力の高いネオパンF、というように、フィルムの特性に合わせて使い分けることが大切なコツです。

カラーフィルム		ASA 感光度	タイプ別
ネガ カラー	コダカラーII	80	デイルイト 〔昼光〕
	フジカラーFII	100	※
	さくらカラーII	100	※
	フジカラーFII 400	400	※
リバ ーサ ル	コダクローム25	25	デイルイト
	エクタクロームX	64	※
	コダクローム64	64	※
	フジクロームR100	100	※
	さくらカラーR100	100	※
	ハイスピード・エクタクローム・タングステン ハイスピード・エクタクローム・デイルイト	125 160	タングステン 〔電灯光〕 デイルイト
黑白フィルム	ASA 感光度	特殊フィルム	ASA 感光度
ネオパンF	32	フジ・ポジティブ	—
パナミックX	32	ミニコピー	—
ネオパンSS	100	コニマイクロ	—
コニパンSS	100	ハイコントラストコピー	64
プラスXパン	125	さくら赤外750	—
ネオパンSSS	200	コダック・ハイスピード赤外	—
コニパンSSS	200	コダック赤外カラー	—
トライXパン	400		

索引〔色数字は主要なページ〕

〔ア〕

赤いLED……………7・61
 アクセサリー……………2・16・25～27・35
 40・46・48・50・52・54・55・61
 アクセサリー取つけ溝……………27・39・63
 ASA感光度……………12・13・25・28
 29・41・56
 ASA感光度目盛……………12・13・30・61
 圧板……………63
 後ピン……………40
 UNDER……………29・61
 暗部……………30・33
 EV……………28・61
 裏ぶた……………8・9・11・19・20・61・63
 雲台……………26・50
 SMC視度調整レンズM……………39
 SMCタクマーレンズ……………54・55
 SMCペンタックスレンズ……………40・42
 43・46・48～51
 Xターミナル……………24・25・60
 Fナンバー……………7・42・43
 LED……………4・7・24・25・28・29
 34・35・37・41・61
 OVER……………7・41・61

〔カ〕

開放絞り……………5・10・41・42・46
 開放測光……………46・54
 肩ひも……………14・15
 カメラぶれ……………7・20・22・47
 カラーズライド……………22・56
 カラープリント……………8・56
 空写し……………10・11・49
 機械シャッター……………37
 キャップ〔ターミナルの〕……………24・25
 距離目盛……………40・43・54・60・62
 銀コート……………60
 銀電池……………3・4・37・61
 クリックストップ……………30・42・54
 クリップオンタイプ……………24
 小絞り……………10・43

〔サ〕

サービスセンター……………4・52・64・65
 最小絞り……………42・60
 最適正露出……………33
 三角金具……………14・15・62
 三脚ねじ穴……………50・52
 三脚用補助板……………26・50
 35ミリフィルム……………8・56・60

絞り・距離目盛指標……………3・5・40・62
 絞り〔絞り環〕……………5・7・10・25・28
 29・37・41～43・46・47・55
 絞り込み測光……………46・54・55
 絞り羽根……………41
 絞り優先……………28・61
 シャッター速度〔表示〕……………7・22・25
 28～30・37・41・42・47・56・60
 シャッターダイヤル……………10・24・34・35・48
 シャッターダイヤル指標〔白いピン〕……………24
 34・35
 シャッターボタン……………4・7・10・20・21
 34・35・41
 シャッターボタンロック……………34・35・60
 シャッター幕……………49・52・60・63
 視野率……………60
 修理……………52・53・64・65
 出張所……………65
 ショルダーパッド……………14・15
 シンクロコード……………24・47
 シンクロターミナル……………24・25・47
 シンクロ発光器……………47
 GPD……………61
 自動絞り……………41・46・54・55・60
 自動絞り解除レバー……………55

自動復元順算式……………61
 自動巻上げ……………61
 受光体……………61
 上下像合致式……………6・38
 ストロボ……………24・25・43・47・56
 スプール……………9・18・60
 スプールのすき間……………9
 スプールのつば……………9
 スプリットイメージ……………6・38
 スプリットマイクロマット……………6・38・60
 スプロケット……………9・63
 赤外線指標……………40
 赤外線写真……………40
 接眼レンズ……………50・51・60・63
 セルフタイマー……………26・27・60
 セルフタイマーレバー……………26・27・60
 閃光電球……………47
 測光精度……………28・29
 測光精度保証範囲……………29
 測光範囲……………28・29
 速写ケース……………15
 外側ガイドレール……………9・63
 ソフトケース……………14・16・34
 ソフトケースの底ぶた……………14・16
 像倍率……………60

【タ】

ターミナル……………24・25・47・62
 耐温度性……………50
 耐寒性……………50
 耐熱性……………50
 タイム〔T〕……………35
 タクマーレンズ……………54・55
 縦位置……………6・16・20・21・39
 ダイヤルデータME……………61
 中間絞り……………42
 適正露出……………28・30・33・41・47
 手持ち撮影……………7・25・47
 テレンプ……………8
 D……………39・60
 ディオプトリー……………39・60
 デイライト……………56
 デジタル表示式……………60・61
 電気シャッター……………37・60
 電池……………3・4・7・34・35・37・61
 電池消耗警告装置……………37・61
 電池ぶた……………3・63
 留め金……………14・15

【ナ】

二重像合致式……………38
 二重〔多重〕露出……………49
 ネガカラーフィルム……………8・22・47・56

【ハ】

発光ダイオード……………4・7・61
 反射率……………33
 パーフォレーション……………9
 パトローネ……………8・9・11・18・19・49
 バッテリーチェック……………4・37
 被写界深度……………42・44
 被写界深度目盛……………40・42・43
 標準レンズ……………2・3・60
 ピント……………20～22
 ピント合わせ……………5・6・7・20・22・38・39
 40・42・43・46・60
 ピントリング……………5・16・20・21・40・60
 B……………35・60
 ファインダー視度……………39・60
 ファインダー窓〔視野〕……………4・6・7・20
 22・24・25・27・28・30・33
 38・39・50～52・63
 フィルター……………2・16・40・46・50・51
 フィルム……………8・11～13・18・19・40・49・56

フィルムを入れる……………8～13
 フィルム送り・巻戻し確認窓……………10
 11・19
 フィルム室……………8・9
 フォトダイオード……………61
 複写……………32・56
 ブラケットタイプ……………24
 ブロワー……………50・51
 ペンタックス・ギャラリー……………64・65
 ペンタックス・ショールーム……………64・65
 保証書……………53
 保存場所……………52
 ホットシュー……………24・25・60
 ボディーキャップ……………3
 ボディー番号……………53
 ボディーマウント……………2・3・55

【マ】

マイクロプリズム……………6・38・39
 枚数盤……………10・11・18・61・62
 マウントアダプターK……………54・55
 前ぶた……………14～16
 巻上げ表示窓……………11・60・62
 巻上げレバー……………5・7・9～11・18
 34・49・60

巻戻し……………18・19・61
 巻戻し完了表示……………19・61
 巻戻しクランク……………8・18・49
 巻戻しノブ……………8・9・11・18
 巻戻しボタン……………18・19・49・61
 マジックニードル式〔スプール〕……………9・60
 M A N……………55
 ミラー……………48・52・60
 無限大撮影〔∞〕……………54
 虫めがね〔ルーペ〕……………22
 明部……………30・33
 メカニカルシャッター……………35・37
 60・61

めがね……………5・39
 メモホルダー……………12・13・61

【ヤ】

矢印……………18・49
 横位置……………6・20・21・38・39
 予備角……………5・7・34・60
 リバーサルカラーフィルム……………22・56
 レフコンバーターM……………27
 レンズキャップ……………5・10・16・27・49
 レンズ装着……………2・3
 レンズ着脱……………48・49

レンズ着脱指標……………2・3・55
 レンズフード……………2・16
 レンズマウントキャップ……………3
 レンズロックレバー……………3・48・55
 レンズ刷毛……………50・51
 レンズ番号……………53
 露出オーバー……………25・33・47・61
 露出計……………28～35・55・61
 露出計スイッチ……………34・35・61
 露出調節……………30～33
 露出倍数ダイヤル……………30・32・33・61
 露出不足〔アンダー〕……………27・31
 32・61

【ワ】

ワインダーME……………61

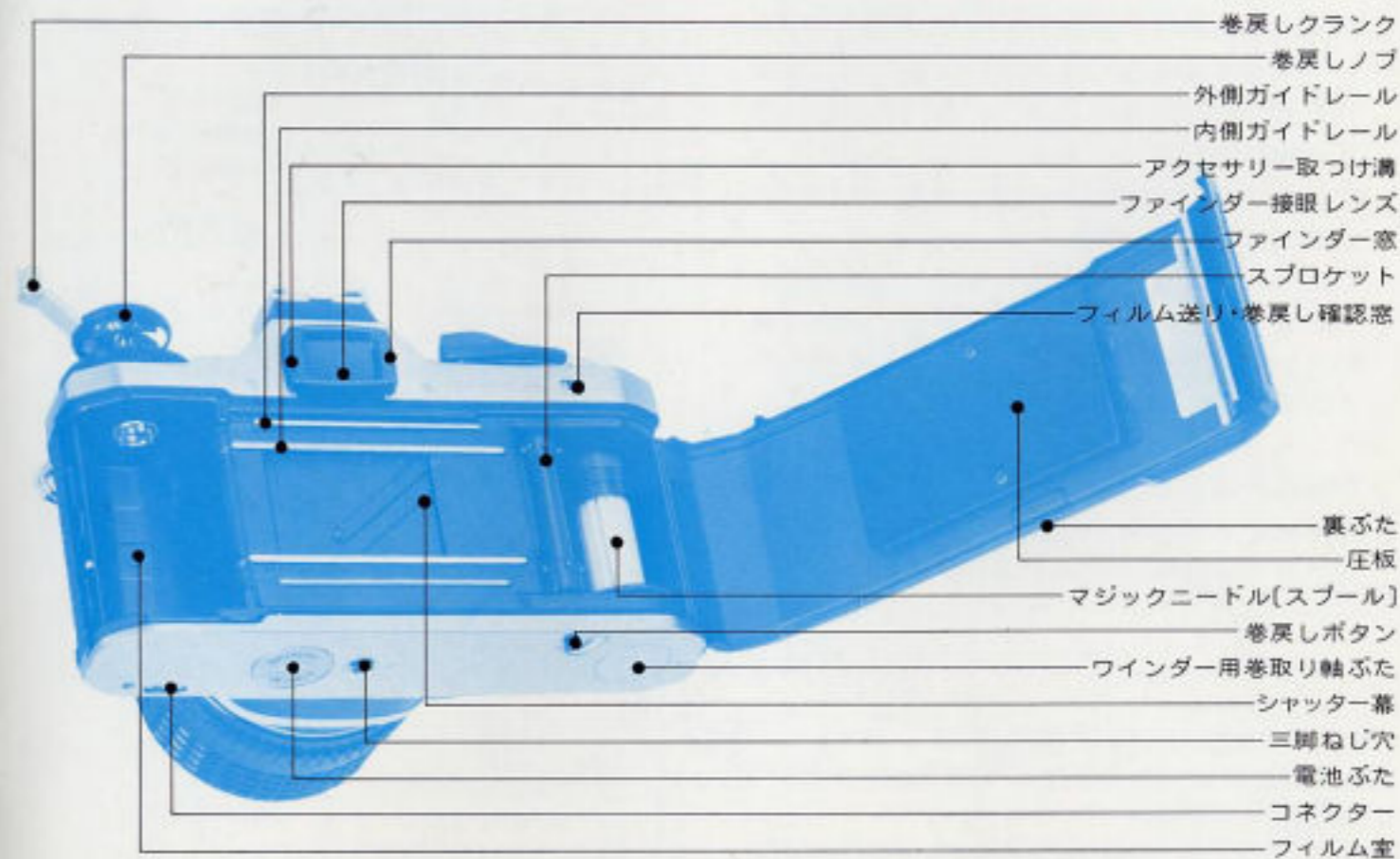
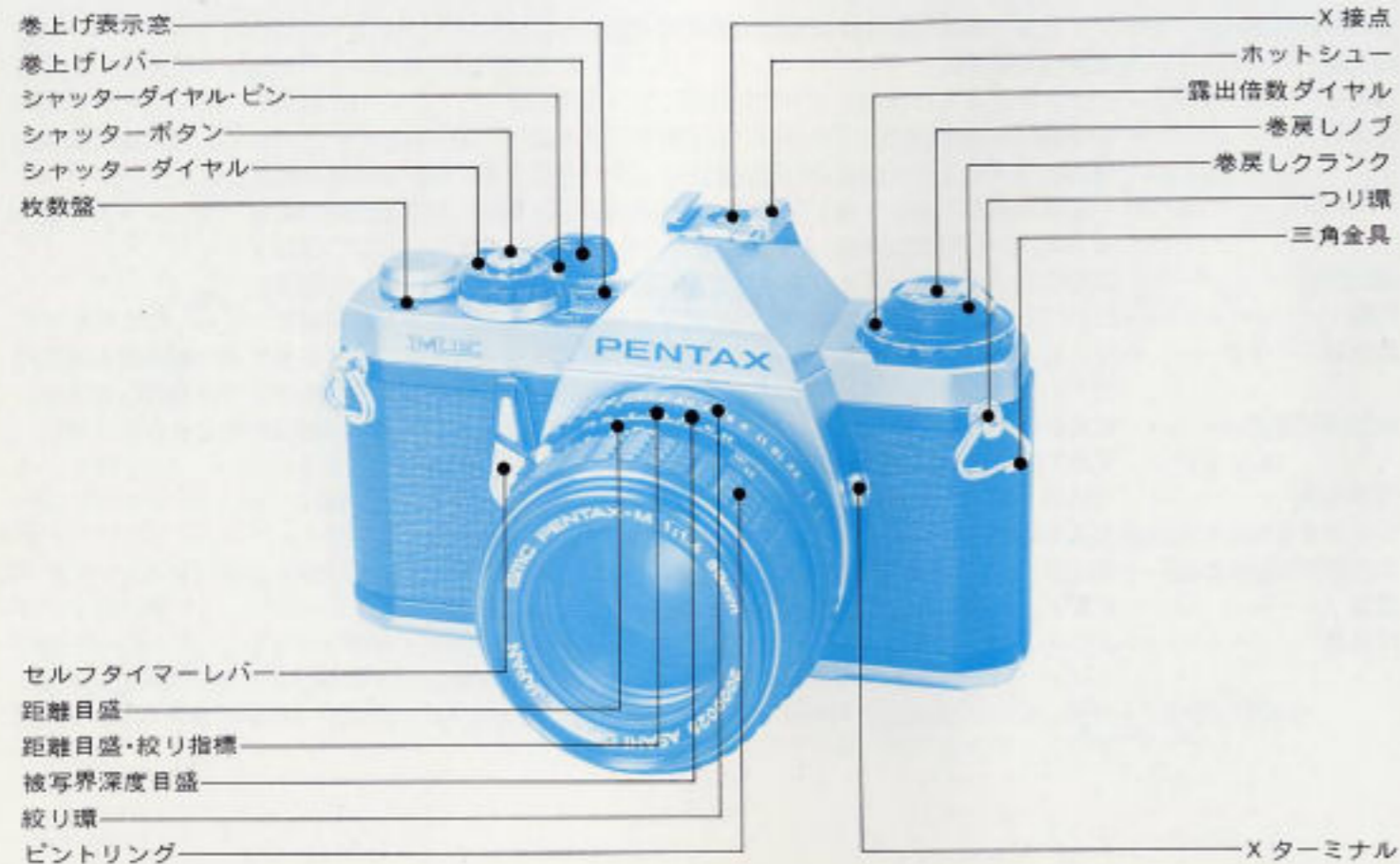
機能諸元表

型式	自動露出TTLデジタル表示式露出計内蔵の35ミリ判フォーカルブレンシャッター式一眼レフ
使用フィルム	35ミリフィルム [J135パトローネ入り]
画面サイズ	24×36ミリ
標準レンズ	SMCペンタックス・50ミリ・F1.2[6群7枚]、最短距離目盛・0.45m SMCペンタックスM・50ミリ・F1.4[6群7枚]、最短距離目盛・0.45m SMCペンタックスM・50ミリ・F1.7[5群6枚]、最短距離目盛・0.45m SMCペンタックスM・40ミリ・F2.8[4群5枚]、最短距離目盛・0.6m 自動絞り、直進ヘリコイド、最小絞り・F22
レンズマウント	ペンタックスKマウント、フランジバック・45.5mm
シャッター	セイコーMFC縦走りメタルシャッター、シャッターボタンロック付き オート電気シャッター……8～ $\frac{1}{1000}$ 秒[無段階] マニュアルメカニカルシャッター…… $\frac{1}{1000}$ 秒、B
シンクロ	ホットシュー[X接点]、Xターミナル[JIS・B型、抜け止めねじ付き]。Xシンクロは $\frac{1}{100}$ 秒
セルフタイマー	4～12秒、始動はセルフタイマーレバーの復元操作による
ファインダー	ペンタプリズム式ファインダー[銀コート]、スプリットマイクロマット式、像倍率・50ミリレンズで0.97×、視野率・92%、視度・[ピント面] -0.5ディオプリー[D]、[シャッター速度目盛]・-0.8D
ピント合わせ	ピントリングを回して、ピントガラス上の映像を接眼レンズで拡大して見る
ミラー	クイックリターンミラー
フィルム装填	マジックニードル式クイックシュアローディング
巻上げ	レバーによる、巻上げ角・135°、予備角・30°、巻上げ表示窓、フィルム送り・巻戻し確認窓

(すべて距離目盛は、
被写体からフィルム面まで)

自動巻上げ	ワインダーME [別売り] を装着すれば可能
枚数盤	自動復元順算式
巻戻し	クランクによる、巻戻しボタンに巻戻し完了表示付き
露出計	中央重点全面測光式、受光体・GPD[ガリウム・ヒソ・リン・フォトダイオード]、絞り優先式自動露出、ファインダー内に自動露出のシャッター速度、OVER、UNDERを赤LED[発光ダイオード]で表示、メカニカルシャッターの場合は点灯しない。測光範囲は50ミリ・F1.4レンズの場合、ASA100・EV1～19、ASA目盛、12～1600
露出調節	露出倍数ダイヤル・4×、2×、1×、 $\frac{1}{2}$ ×、 $\frac{1}{4}$ ×
電源	1.5V銀電池・2個[G13型、エバレディーS76E、またはマクセルG13]
露出計スイッチ	シャッターボタンの第一段でon、巻上げレバーの予備角位置で、シャッターボタンの第一段まで押すと、onの持続。巻上げレバーの収納、またはシャッターボタンロック、及び100×、Bでoff
電池消耗警告	電池が消耗して来ると、露出計スイッチのonによって、シャッター速度表示のLEDが点滅し、電池の消耗を警告する。点灯しなくなれば使用不可能
裏ぶた	交換式、ダイヤルデータMEを装着可能
メモホルダー	裏ぶたにある
大きさ[ボディのみ]	幅131×高さ82.5×厚み49.5ミリ[幅は上カバーの外寸、厚みはマウント面から裏ぶたまで]
重量	ボディのみ460g、50ミリ・F1.4付き・700g
付属品	肩ひも、ショルダーパッド、電池、三角金具、三脚用補助板、ボディキャップ、ファインダーキャップ [標準レンズ付きで出荷する場合はボディキャップが付属しません]・標準レンズキャップ、レンズマウントキャップは標準レンズに付属 [標準レンズ付きで出荷する場合は、レンズマウントキャップが付属しません]

部分名称



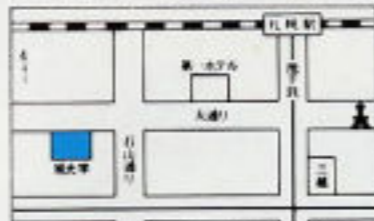
お問い合わせは各営業所・出張所・サービスセンターへ

- 旭光学各地のサービスセンターでは、ペンタックスカメラをはじめ、各種交換レンズやアクセサリーが展示してあり、専門家が種々のご相談に応じております。また、お手にとって自由にのぞくことができますから、おついでの際はお気軽にお立ち寄り下さい。
- ペンタックス・ギャラリーは、わが国最初の「カメラ博物館」として開設され、湿板写真時代から今日までの世界のカメラが多数展示されております。
- ペンタックス・ショールームでは、旭光学の新製品をはじめ、大型カメラや引伸機等の輸入機材が常時設置されており、撮影からプリントまでの行程が一目で分ります。

同封の愛用者カードは
ご記入の上ぜひお送り下さい。
ご愛用者として登録し
将来ダイレクトメールなどに役立たせていただきます。



東京 サービスセンター
〒104
東京都中央区
銀座西8丁目10番地
☎03(571)5621代



札幌 営業所 サービスセンター
〒060
札幌市中央区
南大通り西11丁目4番27号
☎011(241)8742代



仙台 営業所 サービスセンター
〒980
仙台市中央2丁目2番10号
仙都會館
☎0222(61)5681代



横浜 営業所 サービスセンター
〒232
横浜市中区不老町1丁目4番6号
東明ビル
☎045(681)8771代



名古屋 営業所 サービスセンター
〒461
名古屋市東区
泉1丁目19番8号
☎052(962)5331代



大阪 営業所 サービスセンター
〒542
大阪市南区
堀町通り2丁目1番地
☎06(271)7991代



広島 営業所 サービスセンター
〒730
広島市中区8番12号
広島グリーンビル
☎0822(48)4321代



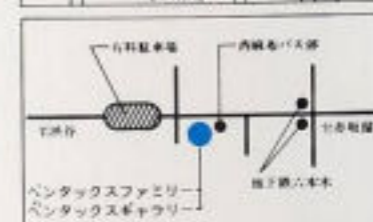
福岡 営業所 サービスセンター
〒810
福岡市博多区
中洲中島町3番8号
☎092(281)6868代



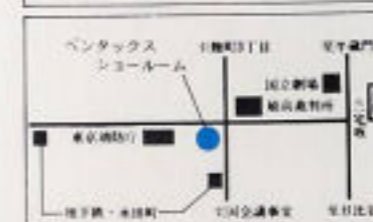
静岡 出張所
〒420
静岡市伝馬町24番2号
住友建設ビル3階
☎0542(55)6308代



高松 出張所
〒760
高松市鍛冶屋町6番地12
池田ビル2階
☎0878(21)7650代



**ペンタックス
ギャラリー**
〒106
東京都港区
西麻布3丁目21番20号
☎03(401)2186



**ペンタックス
ショールーム**
〒100
東京都千代田区
永田町1丁目11番1号
☎03(580)2051代